

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400023		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームわくがわ		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村湧川1578-2		
自己評価作成日	平成 30年 1月 11日(木)	評価結果市町村受理日	平成30年 7月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4791400023-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 30年 1月 29日(月)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームわくがわは、やんばるの自然に囲まれ羽地内海が見おろせる高台に位置し穏やかな時を過ごせる環境にあります。
 入居者、地域、職員の3本柱で地域に溶け込み支え、支えられる関係を作り開かれたホームを目指しています。
 重度化、看取りに対しては、事業所に看護師、または村内の診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め緊急時にも対応できる体制を取り、終末期ケアに関しては要望に応じ望む方には当事業所での看取りを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当グループホームの入居者は、自宅からグループホームへと生活の場が移行した後も「わくがわ区公民館にいきたい」との要望や、入居者の面会時は入居者本人だけでなく交流のあった入居者とも交流したり、事業所内の新聞で村内の記事や慶弔欄で友人知人の情報を得たりと、入所後も「近所付き合い」の感覚で「地域の中に溶け込んだ」日常生活を送っている。
 ・開設時の職員が継続しており、区や村の行事には裏方や舞舞台に参加協力し入居者は観賞しながら地域住民と交流し、事業所内行事では当地域で継承されている「差し入れ持寄り」文化で地域住民と共に楽しんでいる。
 ・当グループは職員の国家資格取得にも積極的に取り組み支援し資格取得後は資格手当を支給し、資質向上と「遣り甲斐のある職場」作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理念について説明している。申し送り時に出勤者全員で理念を唱和している。ミーティング時事業所の理念について説明しどのように実践につなげていくか話し合いを行っている。	理念は開設時管理者職員全員で地域密着型グループホームの役割を念頭に作成した。行事には地域住民の一員として着付け等の裏方や踊り等に参加し入居者は見学觀賞し、楽しい交流の場が認知症理解に繋がる様心掛けています。又日常支援をなかなか受け入れられない入居には理念に振り返り支援を模索し信頼関係を築き日常支援を円滑に提供する様努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏はバーベキューを行い近隣や地域の方に来てもらい交流し入居者の状態やホームでの生活を見てもらっている。また地元の老人会との交流もあり行事ではホームに来てもらったり公民館にこちらから出向いたりと交流を深めている。	隣人からの季節の野菜の差入や子供会の資金調達のための缶段ボール等の回収・名桜大生の夜勤実習・教会関係者が紙芝居の慰問・事業所内行事には地域住民にBQの調理や配膳等参加して頂いている。公民館・老人会のカラオケ大会・バンド・祭りや草刈作業等に参加し交流している。又村主催の認知症講座では事例紹介を務めた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地元の区長さんが参加されグループホームの状況や認知症についての説明を行っている。村の祭りには入居者の作品を展示し地域の行事に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホームの活動内容や事故報告を行い参加者の皆さんからの意見を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。	2か月に1回定期的に入居者家族・区長民生員・行政担当者が参加し入居者の入退出状況や敬老会や豊年祭り等の参加状況、マグロの解体ショー・焼き芋や誕生会パーティードライブ等の事業所内行事等の活動報告をしている。介護保険の動向やインフルエンザの状況等多様な意見やアドバイスを推進委員から提供されている。又議事録には事業所内外の活動している様子の写真を掲載し各委員に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員が2名参加されているその方から村の状況を聞き協力関係が取れるようにしている。	行政担当者に更新手続きや生活保護受給者の手続き等で毎月訪問し状況報告している。又困難事例に関しては関係各課と調整している。行政主催の祭りや敬老会には入居者職員も看過協力し、認知講座では事例紹介を行い、高齢者災害時受け入れ依頼にも協力している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を入所時に説明している。やむを得ず身体拘束を行うときは家族へ説明し同意書をもらう形を取っている。ミーティング時で身体拘束についての勉強会を行い正しく理解できるようにしている。	身体拘束をしない方針を掲げミーティングや研修で理解を深め共有し、入居者家族に入所時説明している。転落防止のベットの柵の使用もなくセンサーを2件使用している。日中は玄関等の施錠はせず外出や帰宅希望の入居者には同行や見守りしている。職員の誘導等の場面では肯定的な声掛けを務めている。入居者の現金所持に関しては事業所で預かり「孫に來ずかいを上げたい」との要望に対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時やミーティングなどで虐待についての勉強会を行い、虐待のないケアに取り組んでいる。	虐待に関しては、入所前に弟からの虐待を受けた入居者が入所しており高齢者の身体的精神的虐待を理解し理念に其いた「愛と生きがいのある」笑顔で楽しく親身な日常支援を心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	居室にはこれまで使い慣れた寝具や家具を配置しカベには思い出の写真を飾っている。本人の希望で仏壇を置かれてる方もいる。自宅からテレビを持ち込み居室に配置し好きな時に見れるようにしている。電気の照明もリモコンを居室に置き調整できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の説明をし、同意後利用契約書にて契約を行っている。わかりにくいことがないか都度確認しながら契約に至っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらい意見や要望をもらっている。入居者が意見を言いにくい時などは居室や事務所に話を聞きプライバシーに配慮し話せる雰囲気作りをしている。意見箱はあるが利用はまだない。	入居者には話しやすい環境の個別支援時や居室・事務所で意見要望を聞き「釣りに行きたい・墓参りしたい・畑仕事をしたい・トランプ花札・刺繍・買い物ドライブがしたい」等の要望があり個別及び集団支援をしている。家族からは面会時や電話等で随時聞き「毎日違う服装で過ごしてほしい・美容院の支援や事業所内の散髪・家族の宿泊希望」等あり対応している。	入居者に実子がなく、養子縁組した養子夫婦が居たが金銭管理は親族が行っており、入所費用の支払いに「本人不安」が生じた経緯があり「権利擁護」の知識をえて今後は入居者を支援したいと考えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者へ意見や提案がしやすい環境を心掛けている。またミーティングや日頃の業務での意見も検討し反映できるようにしている。	職員の意見は毎月の職員会議や申し送り・年2回の人事考課や業務中等随時間聞いている。入居者の支援方法の検討や清掃員の休日の業務分担や職員の料理・入浴誘導織紙切り絵等の得意分野を發揮できるよう業務分担している。又国家資格の取得にも費用を援助し資質向上を図っている。職員の遣り甲斐のある職場となる様給与の増額も検討した。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員の登用や、資格者の資格手当などの整備に努めている。 また職員の勤務希望に応じて調整している。	遣り甲斐のある職場環境を念頭に基本給の改善や資格取得の要望には費用などを援助し、資格取得後は資格手当を支給している。職員の長期休暇も交代で履行し、職員の意見提案等もミーティングや申し送り時に反映できるよう検討している。又 職員の得意分野が業務に反映できるようシフトに組み入れ働きやすい職場環境を図っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングなどで勉強会を行っている。沖縄県グループホーム連絡会主催の講演や勉強会などにも参加しケアの質を高めるように心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣するグループホームとは毎日のように職員入居者と交流があり消防訓練では火災通報装置の登録をお願いし緊急時でも助け合えるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昔、農業に携わっていた入居者が畑仕事があったの訴えにホームの庭の畑に本人の希望する野菜の種を本人と一緒に買いに行き、耕し、植え、水まきを任せ要望に応えるようにしている。理念にあるように「愛と生きがい」をもって生活できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会の際に要望を聞く。誕生日と一緒に参加したいと要望があれば参加できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握し何が必要か見極め他のサービスの利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の野菜を植え収穫し調理しやすいように野菜のつくろいや料理するさいの作業を分担し、同じ目的を達成することで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族と話がしたい時には電話をかけ家族の声を聞かせ面会時には日々の状態を報告している。行事などは家族も一緒に参加し食事を楽しむ同じ時間を共有することで共に良い関係作りができるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ電話して欲しい時には連絡をしたり、会いに行きたい時はホームに来てもらったりしている。また豊年祭がある時は家族へ連絡して一緒に過ごせるように支援している。地元の老人会訪問では同級生や知り合いの方に声をかけられ楽しそうに会話されまた踊りを披露し場が盛り上がり楽しく交流されている。	馴染みの場所は羽路内海・釣り場など利用者が地域で生活していた環境が残っておりドライブしている。馴染みの人の関係は入居者の殆どが地域住民で子や孫ひ孫・同級生・近所の友人の訪問や差し入れがある。部落の豊年祭や老人会では家族や友人と一緒に過ごし楽しい時間を共有している。又新聞の慶弔欄で友人知人の情報を得ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	天気の良い日は毎日皆で外に散歩にいけるように支援 また月の行事などで踊りの練習をしてコミュニケーションが取れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居の方が亡くなった後も四十九日が終わって落ち着いたからと手土産を持って挨拶に来られたりと交流がある。また、知り合いの方が入居されているので面会に来られたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時日々の生活の中から入居者の思い暮らし方希望の把握し思いをくみ取れない場合は家族面会時入居前の本人の思い家族の思いの把握に努めている。 畑仕事をしたい入居者に対して畑仕事ができるように一緒に考え支援している。	入居者の殆ど上手に笑顔で会話ができて会話がすくない入居者にはひょうじょうや素振り等で意向を確認している。自宅で楽しいんでいた花や野菜作り・魚釣り・季節の花見や職員と個別の買い物ドライブ等を楽しみながら穏やかな生活を継続したいとの思いがあり支援している。清明祭や正月の外出泊も盛んで外泊2週間の入居者にはその間電話で家族連絡し自宅で平穩に過ごした。又独居の入居者の帰宅支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人の面会時、地域の方との交流時情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できがやらないこと、この人でやることを日々の生活の中から把握し楽しく生活できるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち制 毎月モニタリング 個別ケアのあり方を毎月ミーティングで話し合い良いケアを取り入れている。 家族面会時、状態を説明し家族の意見も計画に取り入れている。	サービス担当者会議には入居者家族・職員・担当介護職員が参加し「公民館の行事に参加したい」等の入居者・家族の要望に基づき参加者の意見を反映し介護計画を作成している。介護計画は更新時や毎月の担当者によるモニタリングの変化に応じて「日々の生活の過ごし方や介助方法」等の計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動の様子入居者の発する言葉、ADLの状況を個別記録に記入する様にし日々の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会のない方はその役割を職員でカバーしている(関りを密にする家族へ電話を取り次ぎ一緒に買い物ドライブ等をお願いしている。)幻聴がある方の対応(どこどこに行きなさいと言ってる場合その場所まで同行したりし不安を解消できるように努めている)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭敬老会豊年祭に参加し地域の方と関りを持っている。季節によりコスモス、桜、あじさい、イルミネーション等見学し心豊かになるように支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1~2回の訪問診療地元の医師で顔見知りの入居者も多く話しもはずみ相談しやすい環境にある。 専門医が必要な場合は紹介してもらい家族の協力を得て専門医受診をしている。	地元の馴染みのかかりつけ医を継続している方が多く、訪問診療の医師は夜間・緊急時の連絡等の対応もあり、協力体制を築いている。又 皮膚科・精神科等には家族の協力を得て受診している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と少し違うといった場合便秘、下痢、皮膚の状態変化など、転倒後は速やかに看護師に連絡できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供しホームでの様子を伝え安心して療養できるようにしている。入院中見舞い様子を聞きケースワーカーを通じて状態確認をおこなっている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針入所時に説明し本人、家族の意向確認している。機能低下していく入居者家族へ説明し看取り期は医師と協力しその都度状況説明や付き添うことができる場合は付き添うように話し合いを持っている。	重度化や終末期に向けた方針・指針は明文化され、マニュアルも整備されている。入居時に家族・本人に説明し、確認書を取り付けている。状態変化時には医師の協力のもと話し合いを持っている。職員は研修を行い看取りケアに積極的に取り組んでいる。本年度は1例看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時、事故発生後勉強会を行い実践力を身につけている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報装置、スプリンクラーを設置し、1年に2回消防訓練を行い災害対策に努めている。区長さんや近隣の方も火災通報装置に登録してもらい協力していただく体制を取っている。	昼夜想定で年二回の災害訓練を実施している。災害マニュアルを整備し、実施記録には、利用者1人ひとりの対応方法や、避難までの細かい時間記録が記されている。区長さんや近隣の方へも火災通報に登録してもらうなど協力体制を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の名前は「さん」をつけて呼ぶ。会話はわかりやすく丁寧に話すよう心掛け時には、うちなぐちを使い親しみやすさも出せるようにしている。 トイレ時はカーテンを閉めパット交換時は陰部を隠しプライバシーに配慮している。	利用者を年長者と敬い、「さん」付けで呼んでいる。本人が傷つきそうな事柄は耳に入れないよう配慮し、気持ちを大切にするケアにあたっている。本人が得意なこと、できることを把握し、洗濯干しや掃除等で力を発揮してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の気持ちを大切にケアするよう心掛けている。また日常会話の中で本人の思いや希望が言えるようにしている。外出、ドライブなども無理せず自己決定しやすい言葉をかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や時間に捉われず入浴希望があれば対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、午睡後には髪の毛の乱れ衣服の乱れを整えている。入浴時の着替えの準備も本人と一緒に準備をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が菜園に植えつけ日々手入れをし収穫した野菜を使用している。食後のお膳ふきテーブル拭きを一緒に行っている。	3食共、事業所で調理している。職員が冷蔵庫のなかの食材と差し入れを使い、日々変化に富んだ調理している。利用者は下ごしらえや片付けを一緒に行っている。魚釣りが趣味の職員による解体ショーや、菜園で収穫した野菜をすぐ調理する等、食事を楽しむことを支援している。職員も利用者とテーブルを囲み食事をとっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のメニューが重ならないよう栄養のバランスを考え食事を提供している。一人ひとりの状態に合わせキザミ食も提供している。 水分補給できるようにペットボトルを準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声掛けしできない利用者は職員が側につき実施している。酔によるうがいも実施している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のパターンを把握し入居者一人ひとりに合わせた介助、声掛けをミーティング時話し合い統一し実践している。	排泄チェック表を用い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗のないよう事前の声かけ等でトイレでの排泄を支援している。声かけ等ケアは職員統一し実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前より実践していた体操をに加え、手すりをつかまえてのスクワット運動や足踏み等の運動を取り入れ実践している。毎日ヤクルトを提供している。それでも排便がないときは座薬や下剤を使用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者1人ひとりの健康状態や体力、リハビリや外出等を考慮し週間入浴表を作成し計画的に入浴を実施し、入浴好きな入居者へは入浴以外でも声掛けし希望があれば入浴している。	1日置きの入浴を基本としているが入浴の時間は本人の体調とタイミングに合わせた個浴としている。簡易浴槽を使用し入浴を楽しめるよう支援している。保湿クリームや乳液等、本人のお気に入りの物を使用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎朝入居者全員が朝食口腔ケアが済んだ後、全員で敷地内を一周散歩し午前午後の2回30分かけ体操を実施。日中の活動を増やし夜間眠れるようにしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を看護師が実施し介護職員は体調変化や排便状況を観察記録し情報を共有している。入居者1人一人の薬の説明書がいつでも見れるようにしている。また精神科薬など変化の激しくなる薬剤については内服前に副作用などを説明し観察できるようにしている。	服用薬品カードをファイルし、職員間で情報を共有している。朝に、夜勤者が薬をセットし、食後は職員がダブルチェックで服薬支援している。飲み終えた後も観察し、記録をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の経験や趣味を生かし、月1回のミーティングで話し合い、本人の希望に添えるよう支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れの日には毎朝散歩へ行きドライブの希望がある日はその都度対応し四季を感じられる花、畑等へはその季節にドライブ計画を立て実施している。	個別のドライブやその日の希望に応じて外出の機会を設けている。半年に一度は動物園や大型スーパーへの遠出や季節のお花見等を実施している。日常的に庭の散歩や田畑へ出掛け、自然と触れ合っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年間の行事計画にショッピングセンターでの買い物計画しその際に決められた金額内で希望の物を自ら選び購入できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば深夜でなければ即座に電話し対応している。遠方にのみ近親者がいない入居者に対しては定期的に本人へ聞き電話をするなど対応している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは衛生的に保つように常に掃除しており毎朝散歩のときに摘んだ花を飾ったりイベント時の写真を飾ったりと生活感や季節感を取り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	利用者がリビングのなかでもお気に入りの場所として寛げるようソファや机を設置したり、庭でゆったりと散歩を楽しめるよう休憩所を設置している。リビングで読書できるスペースや、職員手作りの玩具で楽しく過ごせるよう配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブル、イス、ソファを置き、本を選んだり、いつでも読書ができるスペースを設けている。庭で作業をやられたり散歩したときに休めるベンチやイスも配置している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまで使い慣れた寝具や家具を配置しカベには思い出の写真を飾っている。本人の希望で仏壇を置かれてる方もいる。自宅からテレビを持ち込み居室に配置し好きな時に見れるようにしている。電気の照明もリモコンを居室に置き調整できるようにしている。	冷暖房とベット以外は自宅からテレビやラジオ、家具仏具の持ち込みもあり、持ち込みに制限はしていない。居室に自作の作品や趣味の縫い物が置かれ、壁には家族写真等を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、居室には手すりを設けており自力でできることは声掛けや見守りを行い、新たにわかることは職員で共有し安全に配慮できるようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	・入所後に家族の支払者が次々に変わり対応に苦慮した。	・権利擁護、成年後見制度の知識を深め入居者、家族が安心して暮らせ預けられるホームを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時にキーパーソンの確認、支払者の確認をきちんと行う。 ・入居者、家族が困っていることがないか聞き成年後見制度や権利擁護の説明や希望があれば支援する。 ・ミーティングや研修などで成年後見制度や権利擁護の勉強会を行い知識を深める。 	10ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。